

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名	武甲印 90 生石灰
会社名	全国農業協同組合連合会
担当部署	肥料農薬部
住所	〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F
電話番号	03-6271-8285
Fax 番号	03-5218-2536
電子メールアドレス	<a href="mailto:zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp">zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp</a>
緊急連絡電話番号	03-6271-8285
(空白 ; 標準 8 行、農協提供用記載欄)	

推奨用途及び使用上の制限 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類	急性毒性（経口）	区分5
	皮膚腐食性・刺激性	区分1C
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器系） 区分2（全身毒性、消化器）
	標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分1（呼吸器系）
	吸引性呼吸器有害性	区分1

#### GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	飲み込むと有害のおそれ（経口） 重篤な皮膚の薬傷・目の損傷 重篤な目の損傷 呼吸器系の障害

全身毒性、消化器の障害のおそれ  
長期又は反復ばく露による呼吸器系の障害  
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

#### 注意書き

安全対策 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
粉塵を吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

SDS 整理番号:Q-2 Page2 of 5

対応 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師の診断、手当てを受けること。  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。  
眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。  
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。  
衣類にかかった場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。  
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。  
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。  
飲み込んだ場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

保管 施錠して保管すること。

廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

---

### 3. 組成、成分情報

---

単一製品、混合物の区別	単一製品
化学名	酸化カルシウム
成分及び含有量	CaO 90%以上
化学式又は構造式	CaO
官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	1-189
CAS No.	1305-78-8

---

### 4. 応急措置

---

目に入った場合	きれいな水で十分洗浄し、直ちに医師の診断をうける。
皮膚に付いた場合	きれいな水で十分に洗い流す。
吸入した場合	多量の場合は直に医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	きれいな水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の診断を受ける。
医師に対する特別注意事項	安静と医学的経過観察が不可欠。 眼の中で水分やたんぱく質と反応して生成した酸化カルシウムの塊は水洗浄で除去するのは困難。 医師の手で除去が必要。

---

### 5. 火災時の処置

---

消火剤	小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤。
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の消火方法	少量の場合は、乾燥砂等で被覆し、窒息消火する。

容器内に水を入れてはいけません。  
消火を行う者の保護 消火作業の際は必ず保護具を着用する。

---

## 6. 漏出時の処置

---

人体に対する注意事項 処理作業の際には保護具（保護メガネ、防塵マスク、保護手袋、保護衣）を着用し、粉塵を吸入、皮膚への付着を防止する。  
環境に対する注意事項 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。  
回収、中和 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

SDS 整理番号:Q-2 Page3 of 5

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

---

取扱い  
技術的対策 保護具（保護メガネ、防塵マスク、保護手袋、保護衣）を着用する。  
注意事項 粉塵を極力抑え、適切な集塵装置を設置する。  
安全取扱い注意事項 接触、吸入又は飲み込まないこと。  
保管  
適切な保管条件 密閉し乾燥した場所に保管し、大気との接触を避ける。  
水との接触を避け、防湿及び防水に留意する。強酸を近接させない。  
容器包装材料 耐アルカリ性容器を使用する。

---

## 8. 暴露防止及び保護措置

---

管理濃度 設定されていない。  
許容濃度 ACGIH (TLV-TWA) (2005年度版) : 2mg/m<sup>3</sup>  
設備対策 換気をよくし、粉塵の飛散を防止する。  
保護具  
吸引用 防塵マスクを着用する。  
保護眼鏡 着用する。  
保護手袋 着用する。  
保護衣 着用する。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

---

形状 粉状、塊状  
色 白色～灰色  
臭い 無臭  
pH データなし  
沸点 2,850℃<sup>1)</sup>  
融点 2,572℃<sup>1)</sup>  
引火点 不燃性でありデータなし  
発火点 不燃性でありデータなし  
密度 3.37  
溶解度 水に僅かに溶ける。  
臭いの閾値 データなし  
燃焼性 データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

---

安定性 不燃性。  
空気中の水、炭酸ガスを吸収して水酸化カルシウムと炭酸カルシウムを生成する。

反応性	大量堆積の場合は、湿気により 300℃位に上昇する。 水と反応して、可燃物を発火させるのに十分な熱を発生する。 酸、ハロゲン、金属と激しく反応する。 硫酸、五フッ化水素と接すると発火する。 塩酸と接すると発熱する。
避けるべき条件	水、酸類、可燃物、金属類との接触。
混触危険物質	酸類、ハロゲン類、金属類。
危険有害な分解生成物	なし。

### 1 1. 有害性情報

急性毒性：	経口ラット ♂ LD <sub>50</sub> >5000mg/kg <sup>2)</sup> 経口ラット ♀ LD <sub>50</sub> 5916mg/kg 経口マウス ♂ LD <sub>50</sub> 4226mg/kg 経口マウス ♀ LD <sub>50</sub> 4052mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	皮膚に対して腐食性。湿った皮膚に対して強い刺激性。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	データなし。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：データなし。 皮膚感作性：ヒトの試験で陰性（IUCLID（2000））の記載から区分外とした。 <sup>3)</sup>
生殖細胞変異原性	酵母菌による有糸分裂組み換え試験で陰性、エームズ試験で陰性（IUCLID（2000））の記載があるが、in vivo のデータはなく、分類できないとした。 <sup>3)</sup>
生殖毒性	ラットとマウスの 1 世代試験で影響なし（IUCLID（2000））の記載があるが、データ不足のため分類できないとした。 <sup>3)</sup>
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	粉塵吸入は気道の炎症（ACGIH（2001））、肺炎（IUCLID（2000））の記載から区分 1（呼吸器系）とした。 <sup>3)</sup>
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	鼻中隔の潰瘍、穿孔（ACGIH（2001））、（ICSC（1997））の記載から区分 2（肺）とした。 <sup>3)</sup>
吸引性呼吸器有害性	ヒトで吸引性肺炎が報告された（HSDB（2005））の記載から区分 1 とした。 <sup>3)</sup>

### 1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性	魚類（コイ）の 96 時間 LC <sub>50</sub> =1070mg/L（IUCLID、2000）から、区分外とした。
水生環境慢性有害性	難水溶性でなく（水溶解度=1200mg/L（HSDB、2004））、急性毒性が低いことから、区分外とした。
オゾン層への有害性	なし

### 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	大量の水中に投じ、消石灰とし、これを中和して処理する。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容を完全に除去すること。

---

## 14. 輸送上の注意

---

### 国際規制

国連分類	クラス 8、腐食性物質
国連番号	1910
国連輸送品名	酸化カルシウム
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
海上規制情報	IMOの規定に従う。
航空規制情報	ICAO/LATAの規定に従う。

SDS 整理番号:Q-2 Page5 of 5

### 国内規制

陸上規制情報	特段の規制はない。
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。

---

## 15. 適用法令

---

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）
消防法	貯蔵等の届出を要する物質（法第9条の3・危険物令第1条の10）
航空法	腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）

---

## 16. その他の情報

---

### 引用文献

- 1) 化学便覧 改定4版（平成5年）－日本化学会編
- 2) 石灰 No. 443（1992年11月号）－日本石灰協会
- 3) GHS分類結果データベース（製品評価技術基盤機構）

### 記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱い願います。

本 SDS は、下記秩父石灰工業株式会社の情報を元に作成しました。該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名	秩父石灰工業株式会社
	電話番号 03-3551-2191 FAX 番号 03-3551-2197
担当部門	武甲工場 技術部検査課
住 所	埼玉県秩父郡横瀬町大字横瀬 7 番地
	電話番号 0494-22-8385 FAX 番号 0494-22-2573
緊急連絡先	電話番号 休日・夜間：0494-22-2572